

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年8月24日

【評価実施概要】

事業所番号	0971100144
法人名	医療法人社団為王会
事業所名	グループホーム あかり
所在地	栃木県矢板市扇町2-8-34 (電 話) 0287-44-2115

評価機関名	社会福私法人 栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成19年7月11日	評価確定日	平成19年8月24日

【情報提供票より】(平成19年6月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年12月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	9 人	常勤4人(うち兼務2人), 非常勤5人, 常勤換算5.15 人	
	9 人	常勤3人(うち兼務1人), 非常勤6人, 常勤換算5.3 人	

(2) 建物概要

建物構造	木造 1階建ての1階部分
------	-----------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃（平均月額）	36,000 円		その他の経費(月額)	・ 理美容代—実費 ・ おむつ代—実費 ・ 行事費—実費	
敷 金	無				
保証金の有無 (入居一時金含む)	有（70,000円）		有りの場合 償却の有無	有（退居時全額返金）	
食材料費	朝食	200 円	昼食	400 円	
	夕食	400 円	おやつ	150 円	
	または1日当たり		円		

(4) 利用者の概要(6月20日現在)

利用者人数		18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護 1		8名		要介護 2	5名	
要介護 3		3名		要介護 4	1名	
要介護 5		名		要支援 2	1名	
年齢	平均	86.5 歳		最低	74 歳	
				最高	96 歳	

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	尾形クリニック
---------	---------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

開設して3年が経過したグループホーム「あかり」は、同一敷地内にある在宅介護支援センター、デイサービスセンター、グループホームからなる「ケアセンター矢板」内の一つと位置付けられている。ケアセンター内での連携、更には市内にある同法人のクリニックとの連携のもと運営されている。管理者はこれまでの経験から入居者、家族、職員、皆がここに来てよかったと思えるようにしたいという思いを持ち、理念は「利用者様にやすらぎを、家族には安心を」とし、地域の中での普通の暮らしを目指している。ホーム敷地内の菜園、畑では入居者と職員が稲、夏野菜、色とりどりの花々を育て、花・野菜などは各居室入り口に入居者自らがフラワーアレンジメントとして飾ったり、食材として食卓にのぼっている。職員は入居者が役割を持ち、尊厳を保ち「自信につながる」支援を実践している。職員の自主的勉強会「あかりケアを考える会」では日頃のケアを振り返り、話し合うなど、自らが考えることで職員が育っており、今後もサービスの質の向上が期待できるホームである。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回の評価で指摘された改善点は、運営者・管理者も同席した話し合いで一つひとつ理由を確認し、ホーム全体で改善に向けて取り組んでいる。改善点に疑問を持ったときは、ただ変更するのでなく、入居者も交え検討している。その結果、あえて変更しない結論に達したケースもある。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 職員全員で取り組みリーダーがまとめている。職員は自己評価を「日常のケアの振り返りにもなる」と捉えており、サービスの改善に取り組む意欲が感じられる。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 2ヶ月に1回開催される運営推進会議では、入居状況、事業計画の目標、活動報告などのほか、日常の生活、行事の様子をビデオ上映して、認知症についての理解を深めていただいている。また、外部評価の結果を報告し、意見を出してもらっている。区長の参加があり、地域の行事のお誘い、情報の提供の場ともなっている。事業目標に地域との連携を図ることを掲げており、運営推進会議でも地域に出て行くことを説明している。その具体的な行動として消防や幼稚園などとの関係づくりや自治会の行事への参加、ゴミ当番など地域に積極的に出て行き、いざというときの顔見知りの関係をたくさん作ろうとしている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 月1回発行する個人別の「あかりだより」により、家族はホームでの入居者の暮らしぶりや健康状態、行事予定を知ることができる。訪問時には日常生活の様子や金銭管理について報告し、また意見・要望などを尋ねるようにしている。前回の評価で指摘された意見箱の設置場所や外部相談機関の連絡先の記載などは改善されたが意見・要望は少ない。家族会のときは職員が席をはずす時間を作ったりして意見が出やすいよう工夫もしている。ホーム独自でご家族へのアンケート調査を実施した。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 区長から地元の「お不動さん」の縁日に誘われ、ホームからは煮物などを持参し、用意されたお赤飯や料理をご馳走になりながら地域の方々との交流を楽しんでいる。入居者が日頃散歩している地域の中をきれいにしたいとゴミ拾いをしたり、ゴミステーションの掃除もしている。前区長夫婦は今でも花壇の花を植え替えに来てくださっている。近くの「泉はつらつ館」へ出かけて地域の方と一緒に歌を楽しむこともある。

2. 評価結果(詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「やすらぎと安心」を理念に掲げ、地域の中で暮らし続けることができる取り組みをしている。地域とのかかわりの持てるこの場所で、利用者の自分のこだわりの場、みんなでいる安心の場を作る努力を地域の協力を得て行っている。	○	住みなれた地域でその人らしく安心して暮らし、関係性を継続するために柔軟な支援をするという地域密着型サービスとしての役割も理念に盛り込んでいくことを期待したい。揺るがない実践の拠り所となる事業所独自の理念となるよう現在の理念を補強し明文化することを期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日常的には申し送りやミーティングの際に、管理者と職員は理念を確認・共有し、入居者が「あかり」にきて良かったと思えるホームにするよう取り組んでいる。ホーム設立から3年が経ったところで、職員が自発的に「何ができて、何ができていないか」自分たちのケアを振り返り、ケアの質を見直している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	区長から地元の「お不動さん」の縁日に誘われ、ホームから煮物などを持参し、用意されたお赤飯などの料理をごちそうになりながら地域の方々と交流を楽しんでいる。日頃散歩している地域の中をきれいにしたいと、ごみ拾いをしたり、ごみステーションの掃除もしている。前区長夫婦は今でも花壇の花を植え替えに来てくれる。現在の区長をはじめ地域の方とのかかわりが様々な場面で持たれている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価で指摘された改善点は、運営者・管理者も同席した話し合いで一つひとつ理由を確認してホーム全体で改善に向けて取り組んでいる。「物干し台の場所が遠い」との指摘をうけたが、入居者意見は「決して遠くない」、「玄関脇に下着は干したくない」ということで、指摘改善点に疑問を持った時はただ変更するのではなく、入居者も交え検討し、あえて変更しない結論に達したものもある。自己評価は職員全員で取り組みリーダーがまとめている。		

グループホームあかり

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催される運営推進会議では、入居状況、事業計画の目標、活動報告などのほか、日常生活、行事の様子をビデオ上映して、認知症についての理解を深めていただいている。また、外部評価の結果を報告し、意見を出してもらっている。区長の参加があり、地域の行事のお誘い、情報の提供の場ともなっている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	日常的には、市町村の担当者と情報交換する機会は入居情報の交換や運営推進会議の議事録を届ける時などに限られている。行政からの情報は少ないのが現状である。	○	今後、市内にグループホームと小規模多機能サービスが開設される予定で、市は年に何度か情報交換を行うとのことである。そこで先進グループホームとしてリーダーシップを発揮し、サービスを実施する上での課題に限らず、制度上の問題点なども含めて、現場で明らかになった課題を出し合い、市と連携してサービスの質の向上に取り組むことに期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回発行する個人別の「あかりだより」により、家族はホームでの入居者の暮らしぶりや健康状態、行事予定などを知ることができる。更に家族の面会時に日常生活の様子や金銭管理の報告をしている。金銭管理支援はすべての入居者にするのではなく、できる人は見守りだけにしている。金銭管理の確認は家族のサインで行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	訪問時に家族に意見や要望など尋ねるようにしている。家族会の時は、職員が席を外す時間を作り、意見が出しやすい配慮などもしている。前回の評価で指摘された意見箱の設置場所や外部相談機関の連絡先を記載するなどを改善している。それでも出される意見、要望は少ない。ホーム独自で家族へのアンケート調査を実施した。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は職員の離職を抑える工夫として、「陰口は言わない、こまめな面接、食事会などの開催」をあげている。運営者、管理者、職員の介護に対する真摯な態度が一緒であることが、職場の雰囲気をつくり、入居者との良好な関係をつくっている。開設当初からの職員が大部分であるゆえんと思われる。		

グループホームあかり

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の行動計画作成時に研修計画も年度単位で立てている。パート、常勤の区別なく全員が研修を受けることができるように勤務調整などの配慮をしている。資格取得では、有資格者がサポートすることで支援している。内部研修は、同一法人の専門職の協力で実施している。法人内のデイサービス、ヘルパーステーション、在宅介護支援センターの職員と一緒に教育委員会を作り研修を企画している。また、ホーム独自に「あかりケアを考える会」といった職員の自主的な勉強会で自らが育つ取り組みもしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会主催の勉強会・意見交換会やグループホーム連絡協議会への参加を通してホーム同士の交流を行い、課題を共有することで、サービスの質の向上のための取り組み方法などを探ることができている。自主的に参加する職員にとってはケアの悩みを共有することができ、サービスの改善の参考になっている。	○	今後、市内にグループホームができる予定であるので、身近なところでも情報交換を行うことができることに事業所としても期待している。ぜひ市内のグループホームとの交流・連携を通して、更なるサービスの質の向上に取り組んでいくことに期待したい。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居相談の段階から本人にも家族と一緒に来てもらうが、ホームが嫌だと思わないように、第一印象を大切にしている。すでに入居している入居者と話すときは会話の橋渡しをして雰囲気をつくっている。そして徐々に馴染めるようにしていき、その上で本人の了解のもと、入居に至っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者は、職員に家族のようにいたわりの声をかけてくれる。このことを職員は、ともに暮らす者として受け止めている。職員は、入居者が納得されるまで話を聞くことを心がけている。芋がらの干し方一つにしても教わることが多い。人の役に立つ、自分の役割を持った人として、入居者の自信につながるような支援をしたいという職員の言葉に入居者の尊厳を大切にしている姿がある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の思いや希望の表出に工夫している。入浴介助は入居者一人ひとりと向き合える大切な時間と考えて、介助をしながら全身観察ができ、普段話されないことも話される機会として捉えている。入居者は、ゆったりした気分となり、昔の友達に会いたい、お墓参りに行きたい等、思いや希望が出されることがある。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	職員は一方的なプランにならないよう、利用者の思い主体性を大切にしたいと考えている。入居者一人ひとりの思い、その人らしさを大切にする支援を計画するため、家族から聞き取りをして、ケースヒストリー（生活歴）の作成に全職員で取り組んでいる。また生活のパターンを把握し、入居者の要望、家族の意見を聞き、更に職員の意見をまとめて介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は基本的に3ヶ月で見直しているが、状況が変化したときには適宜変更している。月1回開催するミーティングの中で、ケアカンファレンスが行われ、その上で介護計画が見直されている。職員は事前に意見をまとめて参加するようになっている。関係する同一敷地内のデイサービスセンターや在宅介護支援センターからも入居者に関する情報は日常的に伝えてもらっている。	○	ケアカンファレンス（サービス担当者会議）は月1回開催するミーティングの中で行われている。その記録はミーティング会議記録の中に含まれるが、サービス担当者会議の記録として独立して作成されることを期待したい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制加算の指定を受けており、24時間健康管理・医療活用が強化がなされている。現在は医療連携体制を活かして、その入居者にとって負担となる受診の回避、医療処置を受けながらの生活の継続に留まっている。	○	今後、医療連携体制を活かして、入居者にとって負担となる受診や入院の回避、早期退院の支援、医療処置を受けながらの生活の継続、重度化、終末期の入院の回避など柔軟な支援の可能性が期待できる。

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ほとんどの入居者は同法人医療機関で受診している。それ以外のかかりつけ医を利用者・家族が希望する場合も、受診日や職員の付き添いを考慮して、適切な診察が受けられるよう支援している。入居前にかかりつけ医のあった入居者も、定期的にホームを来訪し、健康状態を把握してくれる同法人のクリニックの医師に信頼を寄せて受診するようになるケースも多い。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	職員は会議や研修で、入居者・家族とは訪問時や家族会などの際に、医療依存度が高まった場合や重度化した場合、また終末期のあり方について話し合っている。職員の直近の勉強会では、同法人クリニック院長の「死生観について」の講義があった。医療連携体制加算を受けている。		
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は入居者の行動・言動を受けとめて傾聴し、目立たず、さり気ない声かけをしている。記録物は目に付かない所定の場所で保管しており、ケアで得た情報の秘密保持については、運営規程、利用契約書に記載されており、管理者は職員会議などでも細心の注意を促している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	家族の希望で午前中は脳刺激のためのゲームに取り組んでいる。大まかな1日の流れはあるが、入浴はゆったり職員とおしゃべりをしたり、就寝時間は好きな時間としているなど、一人ひとりの暮らしの希望・ペースを把握して個性のある支援をしている。入居前からの習慣で毎週家族と外出している入居者もいる。職員は様々な場面で、入居者が理解しやすい声かけをし、訴えに耳を傾けて、思いやその人らしさを大切に支援をしている。		

グループホームあかり

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は給食委員が入居者の希望や苦手な食べ物などを聞いて作成している。サンドイッチ、うどん、そばやバイキング、誕生日メニューなど食事が楽しみとなるような工夫がされている。菜園、畑から入居者の育てた採りたて野菜がテーブルにのることもある。出来るだけ自分で食べられよう、おにぎりにしたり、小さくして食べやすい状態にしている。職員が入居者の間に入ってゆったりとした雰囲気ですり気ない支援をしている。準備、片付けも得意な利用者は一緒に行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人ひとりの好きな時間帯、回数、温度、湯量、洗髪など希望に合わせている。就寝前に入浴すると良く眠れると言う入居者が多いので、現在の入浴時間は夕食の前か後にしている。毎日入浴することもできる。入浴は個別の対応であるので、職員とのコミュニケーションを楽しみにしている入居者もいる。夕食後の入浴など利用者の希望に対応するために、職員勤務体制を工夫している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ホームで飼っている犬の散歩、畑・菜園づくり、食事の準備・片付け、おやつ作り、縫物、保存食作りなど入居者の知恵、経験を発揮する場面をつくっている。おまんじゅう・うどん・がんもどきづくりや芋がら干しなど、職員が入居者から学ぶことも多い。職員は、入居者が自分の役割を持ち人の役に立つ人として、利用者の持てる力を引き出し自信につながるような働きかけをすることを心がけている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	庭先・散歩・買い物・ドライブなど外出の機会を多くつくっている。定期的に近くの「泉はつらつ館」で歌を楽しんだり、直売所へ出かけたり、誕生日には馴染みの店で外食を楽しんでいる。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	2つのユニットの玄関は別だが、それぞれ日中は開かれている。以前、入居者が1人で出かけてしまったことからチャイムを設置したが、普段は見守り、声かけを徹底し、ホーム併設の在宅介護支援センターやデイサービスセンターの職員の協力で、入居者が自由に出入りできるように支えている。「危険箇所マップ」を作ったり、積極的に地域に出ることで最近では地元の方の協力も得られるようになっていった取り組みがなされている。		

グループホームあかり

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけしている	職員は自分たちで歩いて、2km以内の危険箇所をチェックして「危険箇所マップ」を作った。日頃からの散歩で地域の方々と顔見知りになってきている。消防署の協力を得て年2回避難訓練・避難誘導・初期消火（消火器の使い方）や事務所に設置してあるAED（自動体外式除細動器）の使用訓練も行っている。	○	職員だけでの誘導は限界があり、特に一人体制になる夜間は職員にとっても不安は大きい。避難訓練には消防・警察署との連携を図り、運営推進会議で自治会から地域の方たちの参加・協力をお願いしたり、「危険箇所マップ」を活かして具体的な避難誘導の方法を決めるなど、訓練を充実させることが期待できる。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は入居者からの希望をとりいれ、給食委員会で検討・作成され、おやつを含めて栄養・水分が確保されている。野菜・麦・きのこ類を多く使い、スムーズな排便につながるように工夫されている。また、人工透析をしている入居者の特別メニューにも対応している。同法人の管理栄養士がカロリー・塩分摂取量・栄養バランスをチェックしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関周りは観葉植物やプランターに花が植えられ、菜園では夏野菜、ひまわりなどの生育を見て楽しめ、入居者は日に何度も足を運んでいる。菜園のきゅうりが食材になり食卓の話題にもなっていた。玄関先のベンチでは隣接するデイサービスセンターの利用者を見送ることが日課となっている方もいる。廊下はトイレが分かりやすいようにデザインを工夫したり、入居者の作品や金魚鉢を置いたり、各居室入り口は一人ひとり自分で生けた花が飾られ、入居者の日常に季節感を取り入れている。廊下の一角には隠れスペース的にソファ、テーブル、またウッドデッキにも椅子、テーブルが置かれ思い思いに過ごせる場所があり、居心地よく過ごせる工夫をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていた家具（タンス、ベッド、テーブル、ソファ）や身の回りの品が持ち込まれ、壁には入居者の作品などが飾られ、居心地のよい居室となっている。家族が訪ねて来たときなどお茶などを飲みながら過ごせるような設えとなっている。	○	本人の馴染みの持ち物が少なかったり、家族の協力が少ない場合は、入居者の気持ち・意見・希望を確認しながら、その人らしく居心地よく過ごせる居室づくりの支援をしていくことを期待したい。

※  は、重点項目。